

オシレーター分析の基礎①

～計算方法と売買サインの見極め方～

●オシレーター分析とは

オシレーター（Oscillator）とは、英語で“振動するもの” “振動” “変動”などといった意味合いがあります。オシレーター分析では、過去の株価をさまざまな数式に当てはめて計算し、算出された数字を元に売買のタイミングを計ります。投資家の先入観など主観が入らないという点で優れた分析手法と言え、現在ではプロのみならず一般投資家にも広く普及しています。オシレーター分析といってもそのなかに複数の分析方法があります。そこで今回は①モメンタム、②RSI、③サイコロジカルライン、④MAかい離率の4つをご紹介します。

①モメンタム

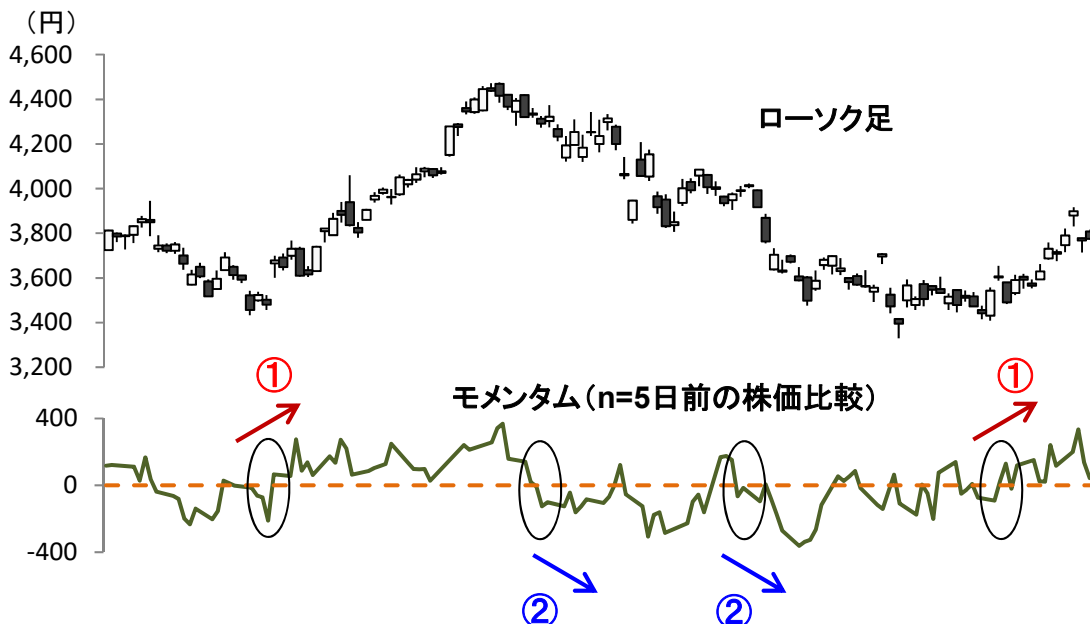
オシレーター分析のなかで最も基本的なものの一つといえるのがモメンタムです。モメンタム（Momentum）とは、英語で“はずみ” “勢い”といった意味があり、その言葉通り相場の勢いを測る分析手法です。

モメンタムの計算式は下記の通りです。

$$\text{モメンタム} = \text{当日の終値} - \text{n日前の終値}$$

nに入る数字に決まりはありませんが、日足であれば5日や10日などが一般的です。

当日の終値よりもn日前の終値の方が高ければモメンタムはマイナス、当日の終値よりもn日前の終値の方が低ければモメンタムはプラスとなります。ある企業の株価チャートを使って具体的な例をみていきましょう。下記のように、日々のモメンタムを算出し、線グラフにすることも可能です。売買のタイミングの見極め方としては、モメンタムがマイナスからプラスに転じた時（①）が買い、反対にプラスからマイナスに転じた時（②）が売りとなります。



オシレーター分析の基礎①

～計算方法と売買サインの見極め方～

②RSI

RSI (Relative Strength Index) は、直訳すると“相対的な強さを表す指標”となります。その意味合い通り、買いと売りのどちらが強いのかを測る指標で、一般的には逆張り指標として用いられます。

RSIの計算式は下記の通りです。

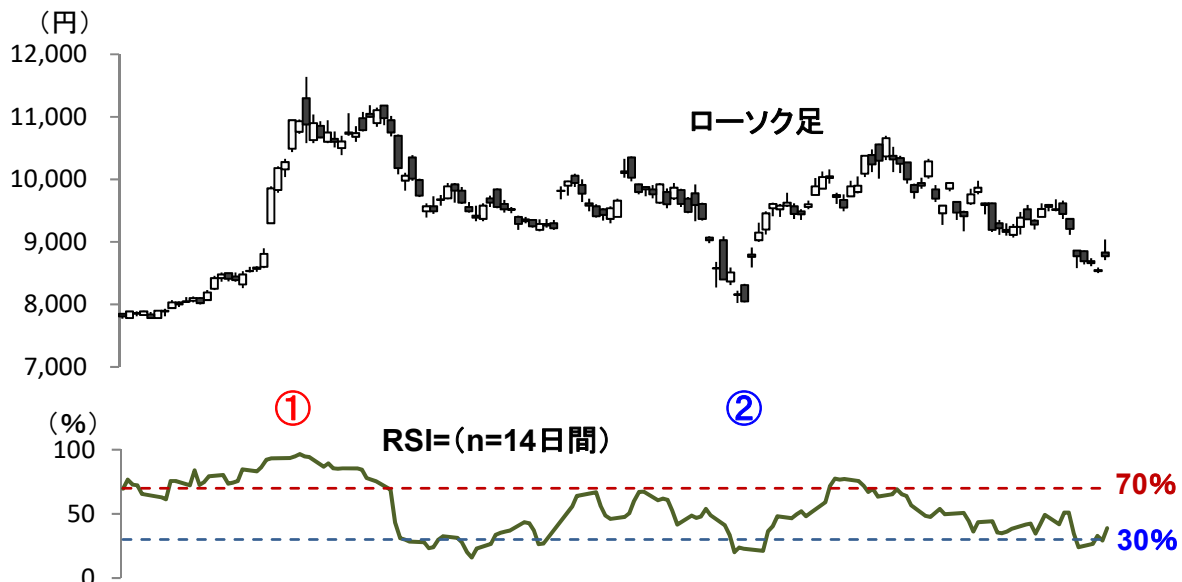
$$RSI = \frac{A}{A+B} \times 100$$

A=n日間のうち値上がりした日の上昇幅の合計
B=n日間のうち値下がりした日の下落幅の合計

nに入る数字に決まりはありませんが、日足であれば14日が一般的です。

RSIは50%が中間地点となり、売り買いの強さが均衡を保っていることを表します。50%を上回っている時は上昇局面という事ができ、一般的に70%を上回っていると買われすぎのサインです。反対に50%を下回っているときは下落局面という事ができ、一般的に30%を下回っていると売られすぎのサインです。

下記のチャートを用いて具体例をみていきましょう。株価が大きく上昇している局面(①)ではRSIが100%に迫る高水準で推移しています。70%を大きく上回っており、買われすぎのサインが出ています。そして、株価が調整局面を迎えている時(②)にはRSIが30%を下回っており、売られすぎのサインが出ています。その他の箇所をみても、RSIは30%が下限、70%が上限として意識されていることがわかります。売買のタイミングを見極める上では、相場の過熱度合いを計ることも重要です。



オシレーター分析の基礎①

～計算方法と売買サインの見極め方～

③サイコロジカルライン

サイコロジカル（Psychological）は英語で“心理的な”“心理学的な”という意味です。その意味合いどおり、サイコロジカルラインは、投資家心理を数値化したものになります。サイコロジカルラインの計算式は下記の通りです。

$$\text{サイコロジカルライン} = n \text{ 日間のなかで上昇した日数} \div n \times 100$$

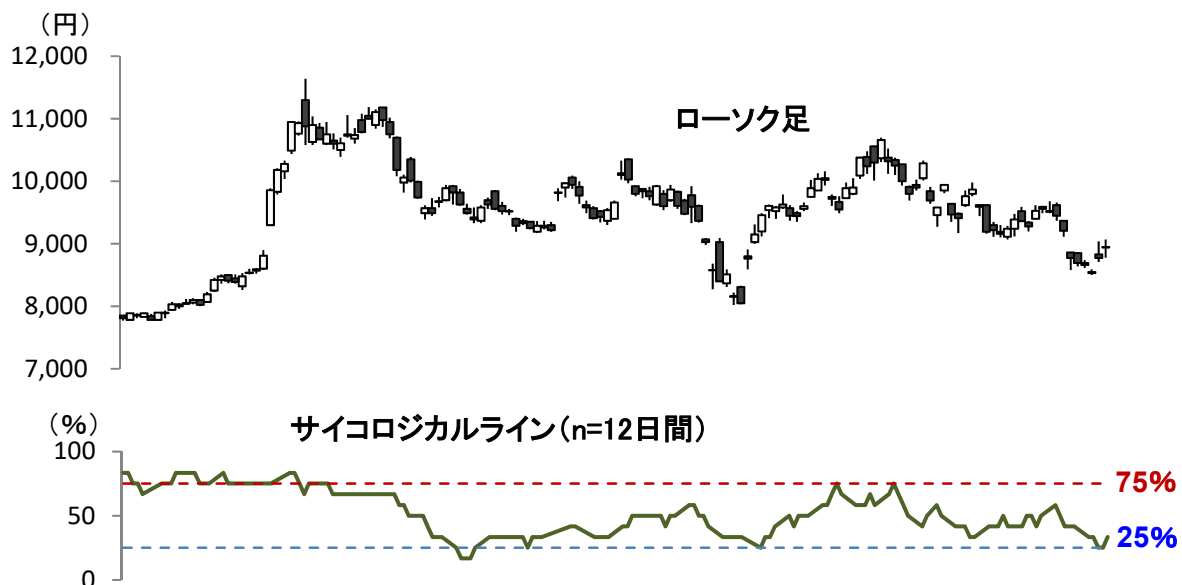
nに入る数字は12が一般的です。

この数式をみると分かるとおり、サイコロジカルラインは期間中（今回は一般的な12日間を使用）の株価の動きが“何勝何敗”だったのかを計算し、上昇日の比率から投資家心理を探る分析手法です。

プロスポーツの世界に例えると分かりやすいでしょう。どんなに強い選手でも勝ち続ける人はいません。勝つ日が続けば、「明日はさすがに負けるのではないか？」と思う観戦者が増えるでしょう。株式市場でも同様のことが言えます。連日で株価が上昇すれば「明日はそろそろ下がるのではないか？」と考える市場参加者が増えますし、連日で株価が下落すれば「明日こそは上がるのではないか？」という心理に傾きやすいです。こうした投資家心理を表した指標がサイコロジカルラインです。

サイコロジカルラインは、75%以上（12日間のうち9日以上上昇）が買われすぎ、25%以下（12日間のうち9日以下下落）が売られすぎのサインとなります。

下記の例をみても、75%が上限、25%が下限としてサイコロジカルラインが機能していることが分かります。



オシレーター分析の基礎①

～計算方法と売買サインの見極め方～

④MAかい離率

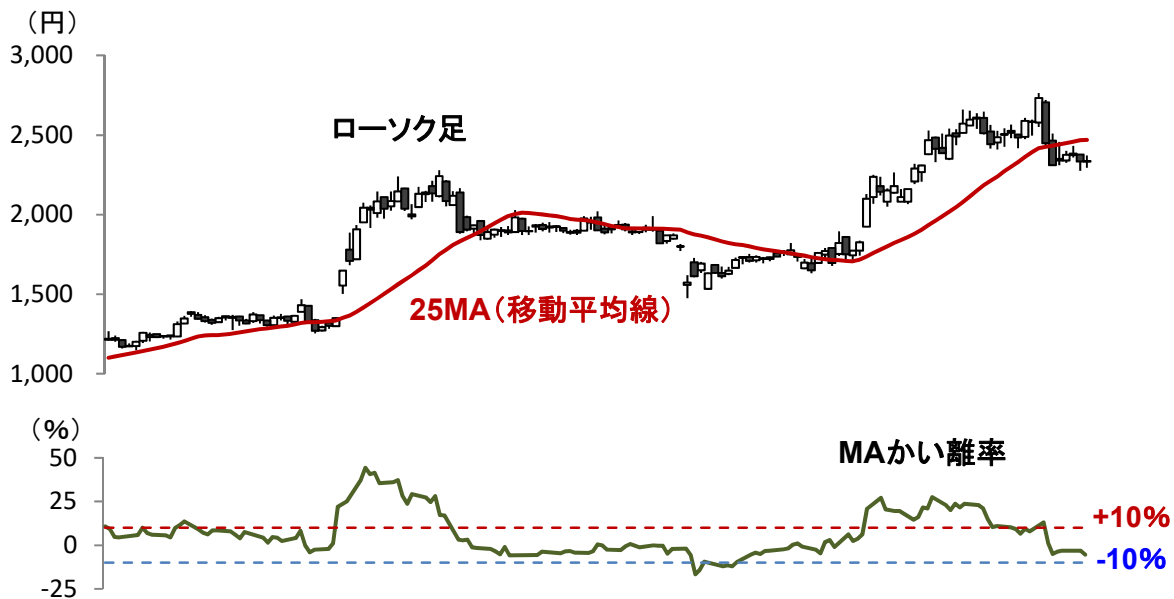
MAかい離率のMA (Moving Average) は移動平均線のことを指し、移動平均かい離率とも言います。株価が移動平均線から上下にどの程度離れて推移しているのかを数値化した指標で、その離れ度合いから売買のタイミングを見極める手法です。

MAかい離率の計算式は下記の通りです。

$$\text{MAかい離率} = \frac{(\text{終値} - \text{n日間の移動平均値})}{\text{n日間の移動平均値}} \times 100$$

これまでご紹介した3つと違い、nに入る数字は各々の投資スタイル（短期か長期か）等によって変わってきます。下記の例は日足で一般的な25日移動平均を用いています。

MAかい離率は、移動平均線から大きく上にかい離し、かい離率が10%を超えていれば買われすぎ、大きく下にかい離し、かい離率が-10%を下回れば売られすぎと捉えられます。ただ、この10%以上・-10%以下という基準は銘柄によっても異なる場合があります。個々の銘柄の特徴をつかみながら基準を見出す必要があります。過去のデータと比較して明らかに突出していれば、そこが買われすぎ・売られすぎのポイントとなり、近いうちに反転する可能性があります。



オシレーター分析のなかには多くの投資家から支持されているものがまだまだありますので、続きは次回のオシレーター分析②でご紹介します。計算が少し複雑なものもありますが、株価推移を客観的な視点からみる上で有効な分析手法です。是非ご活用下さい。

重要な注意事項

免責事項

- ・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、本レポート中の記載内容、数値、図表等は、本レポート作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、本レポートに記載されたいかなる内容も、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本レポートは、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、岡三証券がその責を負うものではありません。
- ・岡三証券及びその関係会社、役職員が、本レポートに記載されている有価証券について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。岡三証券の大量保有報告書の提出状況については、岡三証券のホームページ (<https://www.okasan.co.jp/>)をご参照ください。

地域別の開示事項

【日本】

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。金融商品取引のご契約にあたっては、あらかじめ当該契約の「契約締結前交付書面」(もしくは目論見書及びその補完書面)または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<有価証券や金銭のお預りについて>

株式、優先出資証券等を当社の口座へお預けになる場合は、1年間に3,300円(税込み)の口座管理料をいただきます。加えて外国証券をお預けの場合には、1年間に3,300円(税込み)の口座管理料をいただきます。ただし、当社が定める条件を満たした場合は当該口座管理料を無料といたします。

なお、上記以外の有価証券や金銭のお預りについては料金をいたしません。さらに、証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じて、1銘柄あたり6,600円(税込み)を上限として口座振替手数料をいただきます。

お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<株式>

- ・株式(株式・ETF・J-REITなど)の売買取引には、約定代金(単価×数量)に対し、最大1.265%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.265%(税込み)の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・外国株式の海外委託取引には、約定代金に対し、最大1.375%(税込み)の売買手数料をいただきます。外国株式の国内店頭(仕切り)取引では、お客様の購入および売却の単価を当社が提示します。この場合、約定代金に対し、別途の手数料および諸費用はかかりません。
- ※外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生します(外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その合計金額等をあらかじめ記載することはできません)。外国株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・また、外国株式については、為替相場の変動によって、売却後に円換算した場合の額が下落することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・REITは、運用する不動産の価格や収益力の変動、発行者である投資法人の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により価格や分配金の変動し、損失が生じるおそれがあります。

<債券>

- ・債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・債券は、金利水準、株式相場、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による債券価格の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・債券は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、債券価格が変動することによって損失が発生するおそれがあり、また、元本や利子の支払いの停滞もしくは支払い不能の発生または特約による元本の削減等のおそれがあります。

・金融機関が発行する債券は、信用状況の悪化により本拠所在地国の破綻処理制度が適用され、債権順位に従って元本や利子の削減や株式への転換等が行われる可能性があります。ただし、適用される制度は発行体の本拠所在地国により異なり、また今後変更される可能性があります。

<個人向け国債>

- ・個人向け国債を募集により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。個人向け国債を中途換金する際は、次の計算によって算出される中途換金調整額が、売却される額面金額に経過利子を加えた金額より差し引かれます(直前2回分の各利子(税引前)相当額×0.79685)。
- ・個人向け国債は、安全性の高い金融商品ではありますが、発行体である日本国政府の信用状況の悪化等により、元本や利子の支払いが滞ったり、支払い不能が生じるおそれがあります。

<転換社債型新株予約権付社債(転換社債)>

国内市場上場転換社債の売買取引には、約定代金に対し、最大1.10%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。転換社債を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。転換社債は転換もしくは新株予約権の行使対象株式の価格下落や金利変動等による転換社債価格の下落により損失が生じるおそれがあります。また、外貨建て転換社債は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

<投資信託>

- ・投資信託のお申込みにあたっては、銘柄ごとに設定された費用をご負担いただきます。
お申込時に直接ご負担いただく費用:お申込手数料(お申込金額に対して最大3.85%(税込み))
保有期間中に間接的にご負担いただく費用:信託報酬(信託財産の純資産総額に対して最大年率2.254%(税込み))
換金時に直接ご負担いただく費用:信託財産留保金(換金時に適用される基準価額に対して最大0.5%)
その他の費用:監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等が必要となり、商品ごとに費用は異なります。お客様にご負担いただく費用の総額は、投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、記載することができません(外国投資信託の場合も同様です)。
- ・投資信託は、国内外の株式や債券等の金融商品に投資する商品ですので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が下落することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資信託は、組入れた有価証券の発行者(或いは、受益証券に対する保証が付いている場合はその保証会社)の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が変動することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・上記記載の手数料等の費用の最大値は、今後変更される場合があります。

<信用取引>

信用取引には、約定代金に対し、最大1.265%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託証拠金は、売買代金の30%以上で、かつ300万円以上の額が必要です。信用取引では、委託証拠金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

- 自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。
- 2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本暗号資産取引業協会

【香港における本レポートの配布】

本レポートは、香港証券先物委員会(SFC)の監督下にある岡三国際(亞洲)有限公司によって、SFCに規定される適格機関投資家(PI)に配信されたものです。本レポートに関するお問い合わせは岡三国際(亞洲)有限公司にお願いします。

【米国内における本レポートの配布】

本レポートは岡三証券が作成したものであり、1934年米国証券取引所法に基づく規則15a-6に規定される米国主要機関投資家のみには配信されたものです。本レポートは、受領者及びその従業員が使用することを目的として配信しております。

岡三証券は、米国内における登録業者ではないため、米国居住者に対しブローカー業務を行いません。

本レポートのアナリストは米国で活動をしていないため、米国のリサーチ・アナリストとして登録されておらず、資格も有しておりません。したがって、当該アナリストは、米国金融規制機構(FINRA)規則の適用の対象ではありません。

【その他の地域における本レポートの配布】

本レポートは参照情報の提供のみを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。

本レポートの受領者は、自身の投資リスクを考慮し、各国の法令、規則及びルール等の適用を受ける可能性があることに注意をする必要があります。

地域によっては、本レポートの配布は法律もしくは規則によって禁じられております。本レポートは、配布や発行、使用等を行うことが法律に反したり、岡三証券に何らかの登録やライセンスの取得が要求される国や地域における国民や居住者に対する配布、使用等を目的としたものではありません。

※本レポートは、岡三証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

(2022年1月1日改定)